事例No.	1223
公表年度	R2
団体の属性	一般市
団体名	栃木県栃木市

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・公共施設活用

事例種類	移住促進

事例内容・タイトル

既存インフラを活用した移住定住促進

出典

「地方への人の流れの創出」に向けた効果的移住定住推進施策事例集

（3）栃木県栃木市　既存インフラを活用した移住定住促進

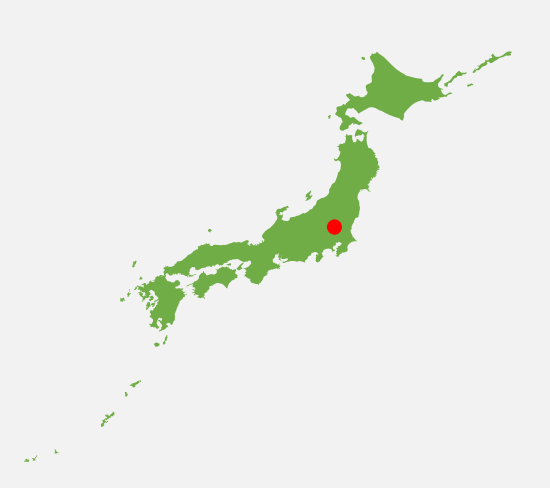
■栃木市の取り組みの特長・ポイント

◆ **市内の主な公共交通機関である東武鉄道を活用した移住体験ツアーや通勤補助金、市内のコミュニティラジオでの移住者コーナー**で、既存の交通インフラ・通信インフラを生かした取り組みを行っている。

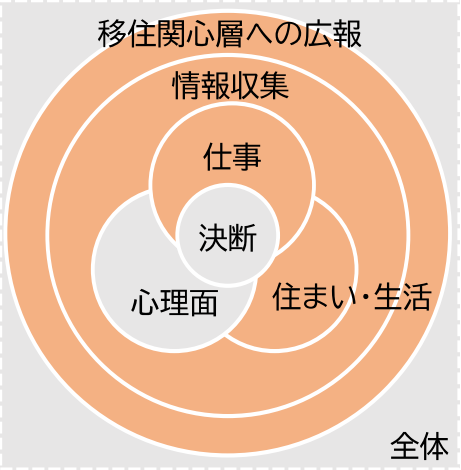
◆ **市内中心部という恵まれたロケーションにある**、まちなかの風情ある空き蔵・空き家を活用した移住体験施設で栃木市の暮らしを体感できる。

■分類

地域	立地特性	人口規模	時間距離
関東	内陸	大 16.0万人	近 2時間



■特徴的なフェーズ



【移住関心層への広報】
東武鉄道沿線在住者をターゲットにした移住体験ツアーを実施して好評を博している。

【情報収集】
市外でも聴取可能な市内コミュニティラジオで移住者が体験を話す30分のコーナーを設け、実際の移住者の声を聴くことができる。

【住まい・生活/仕事】
成約率の非常に高い空き家バンクでの物件情報提供や、まちなかの移住体験施設、東武鉄道の特急通勤者への補助金等の取り組みを行っている。

■移住定住施策の取り組み体制

- **主管課**
  - 都市整備部住宅課　うち移住定住関連は定住促進係が担当している。
- **協力体制**
  - 地方再生コンパクトシティ検討委員会（庁内）　空き家・空き蔵活用がコンパクトシティ事業の一環でもあり、関連する都市整備部局・総合政策部局・商工観光部局・教育部局とも連携している。庁外は地域の宅地建物取引業協会/全日本不動産協会と空き家バンクを通じた住宅案内で連携している。
- **現在の体制に至るまでの経緯等**
  - 2014年度以前は建築課が所管していた空き家バンクを2015年度に発足した住宅課が引き継いだところから主な移住定住施策を開始した。

■関心を持ってもらうため、関心を持った人への情報提供のための取り組み

① 移住関心層への広報

移住体験ツアー

- **栃木市の主な公共交通機関である東武鉄道沿線の新越谷・春日部周辺の住民を対象として2016年度に移住定住促進ツアーを企画**したところ、80人の募集に対し370名の応募があった。栃木市への興味が確実にあることがわかり、毎年行っている。実際の生活を体感するよりは、**まず栃木市を知ってもらうための取り組みなので、観光色を強めにしている。**



図：2019年移住体験ツアーちらし

出所：栃木市提供

見やすく工夫したホームページ

- 市の空き家バンクや移住体験施設のホームページのデザイン・機能を使いやすく工夫し、移住について検索している人の目に止まりやすいように工夫しており、**実際に検索から市の移住体験施設にたどり着き、移住に至った人も多い。**

② 情報収集段階

コミュニティラジオでの移住者コーナー

- 栃木市のコミュニティラジオFMくらら857で月1回、**「教えて移住者のみなさん！」という栃木市へのUIJターン者が出演し、移住したきっかけや移住して感じたこと等を話してもらう30分コーナーを設けている。**自身も移住者であるパーソナリティとの会話を中心に番組は進行する。
- 出演した移住者の声では住環境や自然に言及するものが多い。栃木市民でなくてもインターネット経由で聞くことができる一方で市内のラジオリスナーからも反響があり、**移住者目線でないと気付かなかった地域の特色に気づかされることもあるとのこと。**市内のリスナーには、移住を通じた地域の活性化に興味がある人も多い。

移住定住パンフレット

- 市の移住定住施策のパンフレットも作成しており、**移住に至るまでのプロセスを示しながら**主な移住定住施策や市の様子を紹介している。



図：プロセスを意識した移住パンフレット

出所：栃木市提供

■具体的な検討を始めた人への「仕事」「住まい・生活」「心理面」でのサポート

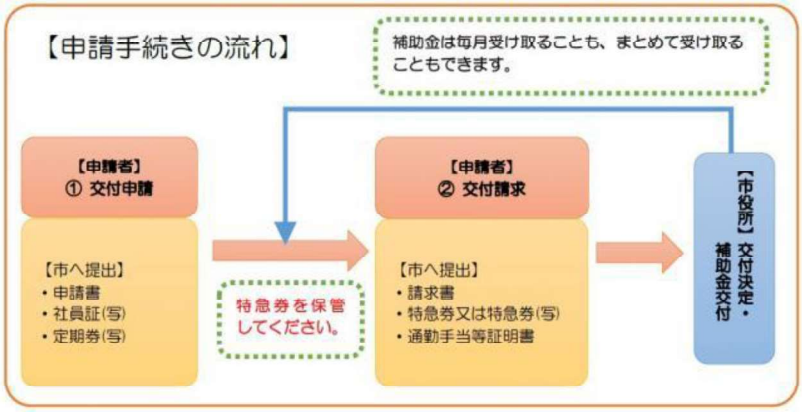
③ 仕事

- ハローワークの地元求人を紹介しているが、近隣市へのアクセスも良好であることから、市外の就職先も視野に入れてもらい、栃木市に居住しつつ市外に通勤するというスタイルも提案している。

3. 事例紹介（3）栃木県栃木市

東武鉄道特急料金補助

- 栃木市の主な公共交通機関である東武鉄道は東京に直結しており、特急列車を活用すれば東京への通勤も可能な範囲にあるため、**東武鉄道を使った通勤・通学者に特急乗車料金補助を行っている。**
- はじめに東武鉄道に着目したのは、2016年度からの移住体験ツアー。当初春日部周辺の住民をターゲットに広報を展開したが、そこで東武鉄道沿線住民がある程度栃木市へ興味を持っていることがわかった。
- 翌2017年度の東武鉄道ダイヤ改正で、浅草ー栃木の直通快速列車の代わりとなる、通勤向けに利便性の向上した特急が導入されたが、特急料金は通勤手当として支給されないことが多いことから、**同年6月に制度設計開始して10月から特急料金補助制度をスタート**、私鉄での事例は珍しい。
- 補助上限は1か月1万円（上限36か月分）だが、毎年200人程度申請があり、初年度には東武鉄道から一定額の利用者に東武グループの買物券もプレゼントされた。東武鉄道からも沿線地域の活力向上につながる有効な補助金と評価されている。制度開始当初は沿線地方公共団体から栃木市への問い合わせも来ていたが、現在は東武鉄道で沿線の複数地方公共団体と同様の施策を取り組み始めるようになったとのこと。





図：通勤者特急券購入費補助金～楽賃～

出所：栃木市ホームページ
https://www.city.tochigi.lg.jp/site/iju/1408.html

④ 住まい・生活

空き家バンク

- 空き家バンクは成約率が高い。地元の不動産業者等と連携して情報の充実を図っている。

手厚い補助金

- 移住補助金、空家バンクリフォーム補助金等、住宅担当部署が所管していることで手厚い支援が受けられる。

移住体験施設

- 移住体験施設は蔵（「IJUテラス蔵人館」）と古民家（「蔵の街　やどかりの家」）があり、**どちらもまちなかにあることが特徴。**IJUテラス蔵人館は安政3年築の古い蔵を移住体験施設にリノベーション、やどかりの家は昭和25年築の空き家だった古民家を改修しており、どちらもまちなかの空き家・空き蔵活用から出発した取り組みである。
- 移住体験施設を知るルートは空き家バンクのホームページからたどりつく人が多いが、移住体験でインターネット検索してたどり着く人、栃木市の知人から聞いた人も多い。
- IJUテラス蔵人館はまちのメインストリートに面している等、立地がいいのでスーパーマーケット等の利便施設と適度な自然のバランスが好評。住んでみて、生活するにあたって知っておきたい気候や夜のまちの明るさ等を体感してもらうことができている。





図：IJUテラス蔵人館

出所：栃木市提供

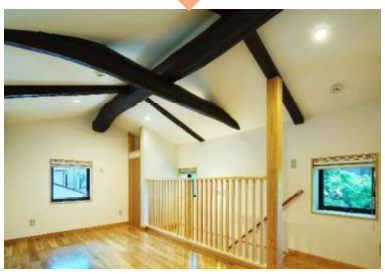






図：蔵の街　やどかりの家

出所：栃木市提供



図：IJUテラス蔵人館の改修前後

出所：栃木市提供

⑤心理面のサポート・⑥ 決断する段階

- 先輩移住者との交流会、移住直後の方や検討者、また移住経験者を集めて交流会を行い、最終的な不安払拭を図っている。例年2回以上の実施を予定しており、毎回10人程度参加がある。

■新しい取り組み、感染症影響下での挑戦等

- オンライン移住者交流会や、オンライン移住相談を拡充している。
- テレワーク推進の中で、市内テレワーク勤務者に対する住宅取得時の補助加算や、テレワーク勤務者の受け入れ体制整備のためサテライトオフィス整備事業向けの補助を行っている。
- 2021年度から移住定住支援コーディネーターを設置、行政的なアプローチ以外での情報発信を期待している。